



好学愛知  
自律敬愛  
質実剛健

# 鶴鳥イ言

## 自分を楽しみ己を彫む

3学年主任 小宮 正裕

晴れて卒業を迎える3年生諸君が鶴丸高校に入学したのは、世界規模で新型コロナウイルス感染症の対応に大騒ぎとなっていた3年前の4月であった。中学校卒業前に休校措置がなされ、高校入学後も多くの制限のある中で学校生活が続いたが、その諸君が卒業の時をこうして迎えられたことに、様々なことが思い出されて感慨深い。

学校行事においては、できなかったり変更せざるを得なかったりすることがたくさんあったが、多くの方が何とかできないかと知恵を絞って工夫し、できることや代替案を実施してきた。生徒諸君も受け身だけだったわけではない。勉強、部活動、学校行事、生徒会活動など、状況に応じて一杯取り組んできたことは、さすが鶴丸に集った人々だ、と感心したものである。普段と違うからできたこと、それを体験できたことは予想外の収穫となったことだろう。

ただ、ずっとマスクをつけることが当たり前になってしまったので、多くの人の人たちの顔をしっかりと見てこられなかった。クラスマッチなどでマスクを外していると「あれは誰だろう」と悩んでしまうことが少なくなかったのは、3年間共に過ごしたことを考えると大変残念である。

さて、昨年末に新聞に掲載された、慶應義塾大学教授松浦壮氏の「研究者たれ 自身自身を楽しもう」というタイトルの文章を読んだ。その中で松浦氏は、「計算でも、読み書きでも、運動でも、当たり前のようにできる事柄には、できなかった過去が必ずある、そのことに向かい合った自分だけの経験がある」と述べている。また「それによって私たちは皆、人生の中で何度も新しい【眼（め）】を会得し、そのたびに風景を一新している（何が本当の意味で身についた前と後で

は風景が変わってしまうということ）という。更に、これは得がたい喜びで、『なぜ学ぶのか?』という問いへの答えの一つであり、積極的な【眼】を開き、自覚的に新しい世界を観るために学んでいる」とも述べている。諸君が3年間高い目標を持ち、その達成のために学んできたことが、まさに言い表されているのではないかと。そして高校卒業は一つの節目でしかなく、更に新しい【眼】を求めていくことになるだろう。

そのための要訣は何か。「研究者たれ」と氏は述べる。「自分にとってわからないことに、自分が納得するまで向き合うプロセスこそが研究で、それはわかっている自分自身を楽しむことでもある」と結んでいる。急激な勢いで世界は変化している。それなのに数十年前からの既成概念などに、私たちはまだまだ囚われてはいないか。当たり前だと思ってきたことに対して一度疑ってみる気持ちを持つことが、特に求められている時代が来ている。

最後に、諸君の卒業を前に懸念していることがある。これもコロナ禍の影響ではあるが、この3年間声を出して歌うことが制限されてきたことである。校歌「はろばると」は勿論だが、応援歌「蒼天翔る」（これは卒業生によっては校歌より心に残る人もいるらしい）、それら両方を満足に歌えずに卒業していく人がいるのではないかと。事実なら残念で哀しいことである。卒業式ではマスク越しでも構わないので、未来への思いを胸に「はろばると」を歌い上げてほしいと願う。



## 校内弁論大会が行われました

2月6日(月)、校内弁論大会の本選が、生徒会文化局の運営と放送部の協力により体育館において行われました。1・2年生の全生徒が弁論原稿を執筆した中から学級代表が選出され、さらに各学年の予選を経て1・2年生から3名ずつ、計6名の弁士が、自分の思いと考えを語り、訴えてくれました。生徒・先生方の代表者17名の審査員が、①声量・発音 ②熱意 ③明確さ ④創造性 ⑤論理性 の観点から厳正な審査を行った結果、12Rの谷山寿さんが最優秀賞に、23Rの美坂莉唯さんと15Rの山本光軌さんが優秀賞に選ばれました。なお、各弁士の演題は次の通りです。

R	弁士	演題
28	桐木平愛菜	マナージャー
23	美坂莉唯	偽善者で何が悪い
21	山本	「一日一善」の先に
17	池田唯	言葉の持つ力
15	山本	表現の責任
12	谷山	〇〇らしく
R	弁士	

今年度はコロナ禍となつて以降、久しぶりに体育館で弁士と聴衆が対面する形で開催されました。



最優秀賞に輝いた12R谷山寿さんの弁論の様子

## 全国の舞台で活躍しています

鶴丸高校の後期は「静の後期」と呼ばれ、生徒達は進級や卒業、進路実現を目指して学習に励み、打ち込んでいるわけですが、生徒達は部活動や課外活動など、学習以外の面でも多彩な才能を発揮しています。

①公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会が主催する第42回全国高校生読書体験記コンクールにおいて、14Rの飛永大維さんの作品「僕の個性」が第二席に相当する全国高等学校校長協会賞に、26Rの松坂琴さんの「生きる練習」、及び32Rの松村和佳さんの「何者かになる」の2作品が入選に、それぞれ輝きました。1月30日(月)に東京ドームホテルにおいて中央入賞者に対する表彰式が行われ、飛永さんが出席し、表彰を受けました。また、学校賞として桶および「集英社文庫100冊セット」が贈られ、本は本校の悠学館(図書館)に収蔵されています。

## 体験記コンクール 一ツ橋文芸教育振興会



②百人一首部の8名(12R森ゆずなさん、15R前山瑛吉さん、21R島尾瑛梨奈さん、21R新小田乃郁さん、21R竹下愛実さん、22R岩崎愛歌さん、23R福山由里子さん、25R有馬暢宏さん)は、3月11日(土)12日(日)に東京都文京区スポーツセンターで開催される「第18回全国高校生かるたグランプリ」に出場します。

③24Rの白坂優太さんは、3月24日(金)26日(日)に香川県善通寺市民体育館で開催される「第26回全国高等学校少林寺拳法選抜大会」に出場します。

## 「AI経営」講座が実施されました

今年度はPWCコンサルティング合同会社様による寄付講座「AIと経営」が実施されています。これは、同社が東京大学への寄付講座としてこれまで実施してきた講座の高校生版で、鶴丸高校は麻布学園(東京都、盛岡第一高校(若手県)とともに、パイロット校として参加の機会をいただきました。

9月21日(水)には、同社のパートナー執行役員である馬淵邦美さんが講師として来校され、1・2年生を対象に、最先端の企業がAIやテクノロジーを使ってどのように経営を行っているのか、さらに今後の社会にどのような変革をもたらす可能性を有しているのかについて、講演してくださいました。講演後には質疑応答の時間が設けられ、生徒たちから多くの質問が寄せられました。

また、1・2年生の希望者15人を対象として、12月2月にかけて計3回のワークショップがリモートで行われ、現在の社会では様々な仕事・職業においてどのような課題があるのかを再定義し、その課題をAIのどのような機能を使用することで解決につなげることができるのかについて、グループに分かれて話し合う取り組みが行われました。9月17日(金)の第3回目は麻布学園、盛岡第一高校と鶴丸高校をリモートで結び、グループに分かれてワークショップが行われました。なお、グループワークの際のファシリテーターの1人として、同社のシニアマネージャーである本校第45回生の枝元美紀さんも参加してくださいました。枝元さんは帰郷していらっしゃった2月15日(水)に来校していただき、ワークショップに参加している生徒たちと交流する機会を設けていただきました。

## 3月の行事予定

月	日	曜	行事等	校時	時間割変更等	学食
3	1	水	5限後清掃及び検査場設営	45分		○
3	2	木	■一般入学者選抜(一日目) 生徒自宅学習(～3/9) 部活動中止			×
3	3	金	■一般入学者選抜(二日目) 部活動中止			×
3	4	土				×
3	5	日				×
3	6	月	生徒自宅学習 エンパワメント・プログラム			×
3	7	火	生徒自宅学習 エンパワメント・プログラム			×
3	8	水	生徒自宅学習 エンパワメント・プログラム			×
3	9	木	生徒自宅学習 エンパワメント・プログラム			×
3	10	金	学校安全の日 登校再開			○
3	11	土				×
3	12	日				×
3	13	月	全校朝会	5分		○
3	14	火	SC来校(児玉先生 13:30～17:30)			○
3	15	水				○
3	16	木				○
3	17	金		40分		○
3	18	土	悠学講座⑩			×
3	19	日				×
3	20	月	学年朝会	5分	火曜授業	○
3	21	火	春分の日			×
3	22	水	合格体験を聞く会(7限)			○
3	23	木				○
3	24	金	終業式 大掃除 復習考查時間割発表			×
3	25	土				×
3	26	日				×
3	27	月				×
3	28	火	離任式			×
3	29	水				×
3	30	木				×
3	31	金				×

↑発行時の予定です。変更にご注意ください。

